

## 第6回 昭島市地域福祉活動計画策定委員会 会議要録

### 一 会議の日時及び場所

日時：平成26年12月4日（木） 午後6時30分～午後7時30分

場所：昭島市保健福祉センター4階 講習室・休養室

### 二 出席した委員（12人）

五十嵐和夫委員、石倉三雄委員、石田英一郎委員、大山弘一郎委員、奥村展子委員、久保美智子委員、高橋知子委員、常木浩史委員、橋本一政委員、福島忍委員、牧野奈緒美委員、松田京子委員

### 三 議事

#### 1 協議事項

・計画素案

#### 2 その他

## 【委員長】

第6回の策定委員会ということで、予定では最終の策定委員会となる。本質的な議論は前回までで、ほぼ尽くされたのではないかと思うので前回の議論を踏まえ、事務局と調整を図る中で委員長判断としてまとめさせていただいた。大きく変更したところを私から説明する。

サブタイトルを「あきしま支えあいプラン」とした。

本文、9ページ、「計画の期間」だが、昭島市の基本計画に合わせて6年間とした。介護保険事業計画も平成27年度から3年ごとの見直しとのことであり、平成32年度には、市の総合基本計画と介護保険事業計画が本計画と同時期に区切りを迎えることになる。

12ページ、「社会的背景」だが、来年度からの新たな制度改正について、特に「地域包括ケアシステム」について触れておいたほうがよい、との意見をいただいたので、この「社会的背景」の中で言及した。

45ページからの「実施計画」だが、評価の指標として数値目標が必要である、との意見をいただいたので出来るだけ数値目標を記載した。

全体として、これを見たときに市民の皆さんが自分たちの計画と思えるように、計画の対象として子どもたちや子育て世代、障害者の方々などを表記するとともに、実施計画の主体に「市民」を加え、計画の担い手は市民の方々であることを改めて認識していただけるような表現とした。

他に事務局から説明があるか。

## 【事務局】

前回の素案から変更したところは赤字表記とした。

委員長の説明以外の変更箇所は、7ページ、人の一生の記述の削除、17ページ、「発達障害者の推移」の挿入、34ページ、見守り活動の具体的内容の記載、(仮称)福祉協力員の削除、35ページ、災害時の障害者(児)の支援などで、全般的には年号の表記を統一した。

第4章、実施計画の記載については、プランの内容変更に伴い適切な表現に改めた。

## 【委員長】

最終案に対する意見等お聞きしたい。

## 【委員】

ネーミングの件だが、前は簡単に「支えあいプラン」となったが、よく考えると何を支えるのかよくわからない。理念にある「ともに支えあうまちづくり」を副題に加えたほうがいいのではないか。

**【委員長】**

私も、副題があるほうがわかりやすくていいと思う。副題は、波線で囲う。他の社協の計画を見ると、地域福祉活動計画がなくてプラン名、副題があるケースが多いように感じる。

**【委員】**

逆にネーミングがなく、地域福祉活動計画だけという社協もある。今回の親しみやすいネーミングはいいと思う。副題をつけるかは、この議論で決めればいいのか。

**【委員】**

あってもいいし、なくてもいい。支えあいプランが定着すれば、それだけで通じる。

**【委員】**

どちらでもいいが、昭島市地域福祉活動計画を左上に字を小さくして表示し、あきしま支えあいプランを目立たせる。

--- 副題をつけることについて多くの委員がどちらでもよい、との意見 ---

**【委員長】**

事務局はどうか。

**【事務局】**

出来れば今のままでお願いしたい。

**【委員長】**

副題をつけないことにする。

**【委員】**

47 ページ、地域懇談会の開催のところ、前は生活圏域という言葉はなかったが、どの程度の範囲を想定しているのか。

**【事務局】**

生活圏域としては歩いて 10 分程度の顔の見える関係の範囲であると考えている。6 地域としたのは、社協職員の地域担当の体制に合わせたもので、体制が整った時点で、各地区歩いて 10 分程度の生活圏域単位で開催していきたいと考えている。

**【委員】**

58 ページ、地域福祉コーディネーターだが、来年度実施の地域支援事業の中にある生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターとの関係はどうなのか。

**【事務局】**

生活支援コーディネーターは地域包括ケアシステムの中の役割と承知している。一方、地域福祉コーディネーターは高齢者に限らず子どもから障害者、高齢者などすべての地域課題に対応するものであると考えている。市の地域包括ケアシステムの全体像がまだ見えていない中で何とも言えないが、今後、市と調整する中で地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの関係をすり合わせていきたい。

**【委員】**

要望だが、地域福祉活動計画は子どもから高齢者まで幅広く支援していく計画だと思う。今後、市からどのような話があるかわからないが、地域福祉コーディネーターが特化したものにならないようにお願いしたい。

**【委員】**

62 ページ、計画の推進と検証のところだが、計画ではここが大切である。もう少し説明してもらいたい。

**【事務局】**

今回の修正で数値目標を決めたので、毎年、実施状況を検証する中で計画を推進していきたい。その時に、推進委員会のような組織をつくり検証していくことを考えているが、その母体としてはこの策定委員会の皆様に加わっていただきたい。

**【委員長】**

ここからがスタートなので、委員の皆様も招集があったらばよろしくをお願いしたい。

**【委員】**

策定委員会と推進委員会がよくわからない。

**【事務局】**

まだ具体的ではないが、推進委員会はこの策定委員会の皆様の基本を考えている。ただ、推進委員会は新しい人達の参加も考えているので必ずしも同じではない。

**【委員】**

推進委員会が検証の場であるのなら、計画中の検討はどこが行うのか。計画の推進にあ

たって作業部会のようなものを置くのか。

**【事務局】**

特に考えていない。

**【委員】**

例えば地域の人材発掘などはどのようにやっていくのか。

**【事務局】**

実施計画に主体となる団体や組織を記載しているのでその中で検討し、推進していくこととなる。

**【委員】**

項目によって委員会をつくる場合もあろうし、ネットワーク型でいく場合もあると認識している。

**【委員長】**

それでは、議論が尽くされたと思いますので、ただいままでの議論により確定した内容をもって、昭島市社会福祉協議会、伊藤会長の諮問に対する本策定委員会の答申とします。

**【委員長】**

諮問への答申については、近日中に伊藤会長へお渡ししたい。

**【委員長】**

それでは、1年半にわたり、6回の会議でありましたが、大変お疲れ様でした。皆様には、益々のご活躍をお祈り申し上げますとともに、本計画の推進につきまして、引き続きご尽力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。